

新年にあたって

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
会長 小池 広 靖 CMA



新年おめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスによる感染拡大が、世界を覆いました。国内では夏にかけて感染者数が急増し、国民の多くが厳しい状況に置かれることとなり、1年延期された「東京2020オリンピック・パラリンピック」が多くの競技会場で無観客開催となりました。日本人選手の活躍を間近で観られなかったことは残念ですが、夏以降に急速に広がった国民へのワクチン接種と緊急事態宣言・まん延防止措置により、9月以降には国内の感染者数が減少することとなりました。人々の移動が増加してきたことは、本年のサービス消費の増加を期待させます。一方で、国外に目を向けるとアジア地域での感染拡大の影響で、半導体・電子部品の供給が停滞し、グローバルなサプライチェーンの混乱を引き起こしました。昨年末にかけて、欧州を中心に感染の再拡大や新変異株の出現により、グローバルに金融市場が影響を受けるなど、本格的な回復には予断を許しません。しかし、感染の収束や新変異株へのワクチンの対応が進むにつれて国内では自動車などの製造業の輸出が回復し、製造業全体に生産回復の好影響が波及していくことでしょう。本年は国内景気の本格的な浮揚を期待したいと思います。

ここ数年、変化の激しさを実感する機会が増えていますが、特に昨年は変化の多かった1年であったと思います。バイデン大統領就任、米国アフガン戦争終結、岸田内閣発足と衆院選など大きな変化がありました。また脱炭素を始めとしたサステナビリティ課題への取り組みが加速した1年であったように思います。地球環境の改善と持続的な成長の両立を実現するため、インベストメント・チェーンが投資と企業経営の両面で一層意識されるようになりました。2020年に行われたスチュワードシップ・コードの改訂で、機関投資家に対して、サステナビリティを考慮した投資先企業との対話やスチュワードシップ活動を行うことが盛り込まれました。昨年10月末時点でスチュワードシップ・コードの受け入れを表明した機関投資家が320に達するなど、いよいよ実践の段階に移行したと感じています。さらに昨年6月のコーポレートガバナンス・コードの改訂では、取締役会の機能

発揮、企業の中核人材における多様性の確保に加えて、サステナビリティを巡る課題への取り組みなどに関して、新たに企業に実践を求める内容が盛り込まれました。投資家も企業もESGに対応することが重要なテーマとなっています。証券アナリスト（CMA）の皆さまにおかれましても、グローバルな潮流の変化を機敏に感じ取りながら、財務情報だけでなく、非財務情報を活用する必要性が高まっているのではないのでしょうか。

昨年11月に閉幕したCOP26は、脱炭素に対する取り組みをグローバルで一層加速させました。2050年の脱炭素を目指すことを表明している日本企業は増加してきています。企業分析に当たっては、企業の脱炭素に向けた取り組みを各社のサステナビリティレポート等から読み解き、想像することで、その企業の価値を適切に評価していかなければなりません。また、脱炭素の取り組みが不十分であると判断した企業に対しては、企業との建設的な対話を通じて、脱炭素を働きかけていかなければなりません。このようにCMAの果たすべき役割は年々大きくなっており、社会からの期待もますます高まっています。その期待に応えるためにも、CMAの皆さまには高い倫理観に基づいた、高度な専門性の発揮が求められていると思います。

当協会としては「金融・投資のプロフェッショナルの育成」という使命に基づき、CMAを育成するために質の高い講座や試験の提供に、引き続き取り組んで参ります。CMAに求められる専門性・倫理観を的確に反映するため、昨年CMAプログラムを15年ぶりに改訂しました。企業価値分析が重視される中で、「コーポレート・ファイナンス」を独立した学習分野として第1次レベル講座に組み入れたことに加え、顧客本位の取り組みやコンプライアンスが強く求められていることから、「職業倫理・行為基準」も第1次レベル講座に組み入れました。このようなカリキュラムの適切な見直しにより、CMAのクオリティを担保していきたいと思います。またCMAの皆さまが時代の要請に応えられるよう、ジャーナル、講演、セミナーなどを通じて継続学習の機会も提供し続けていきたいと思っています。

本年、日本証券アナリスト協会は60周年という節目を迎えます。この60年間でCMAは約28,000人まで増加しました。CMAの諸先輩方、CMAの皆さまのご尽力とご活躍の賜物と思います。この60年で日本も世界も大きく変化しました。金融資本市場だけみても大きな出来事がいくつもあり、それを乗り越えながら発展してきました。CMAの基本的な役割は変わることはありませんが、環境の変化には対応していかなければなりません。次の10年もCMAの社会的使命を一層高めるために、われわれのインテリジェンスを最大限に発揮し、当協会が日本の金融資本市場を牽引していく存在でありたいと思います。

本年のCMAの皆さまのご健勝とご活躍を祈念するとともに、当協会の活動へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。